

「教員免許状更新講習」
～学校教育における体験活動の効果的な進め方～

平成 23 年 11 月 19 日（土）～20 日（日）
及び 23 日（水） 3 日間



I 事業の背景（必要性）

学習指導要領では、子どもたちの社会性や豊かな人間性をはぐくむため、その発達段階に応じて集団宿泊活動（小学校）、職場体験活動（中学校）、奉仕体験活動や就業体験活動（高等学校）を重点的に推進するとしています。体験活動の充実を図るためには、教員自らの体験を豊かにするとともに、教員が体験活動に関する基礎的な知識・技能を身につけることが求められています。

また、教員免許更新制を円滑に実施するにあたっては、受講対象者が受け入れられるよう十分な講習体制を整えることが国の政策課題となっています。

そこで、文部科学省が所管する独立行政法人であり、体験活動に関する高いノウハウを有する当交流の家においても、免許状更新講習を開講することとしました。

II 事業の概要

1. 趣 旨

児童生徒の「生きる力」をはぐくむ上で、体験活動の果たす役割は大きく、新学習指導要領においても、「体験活動の充実」が教育内容の改善のポイントとされています。

そこで、青少年教育施設を活用した「集団宿泊活動」を中心に、「体験活動の教育的意義」と「教育課程における体験活動の位置づけ」の理解、「体験活動の企画力」や「野外活動や体験活動の指導力」の習得を目的に、理論と実践を組み合わせた免許状更新講習を開設します。

2. 参加者

(1) 対象・募集人数

30名（最小催行人数：10名 ※この人数に達しない場合は開設を中止することがあります。）

(2) 参加状況

<内訳>

	男性	女性	合計
小学校教諭	3	1	4
中学校教諭	10	3	13
高等学校教諭	10	2	12
特別支援・他	1	2	3
合 計	24	8	32

<参加地域>

	男性	女性	合計
静岡県	23	7	30
山梨県	1	0	1
千葉県	0	1	1

(3) 広報の方法

- ①前年度に開設申請を行い、静岡県のホームページに開設状況を掲載してもらいました。
- ②東京都、千葉県、神奈川県、山梨県の教育委員会に募集要項を送付するとともに、関

係各所への連絡を依頼しました。

3. 日 程

19日 (土)	10:15	10:30	12:00	13:00	16:30	16:45	18:15
		開講式 オリエンテー ション	「教育の現 状と課題」	昼食	「学級づくりに活かす 体験活動の指導」 (チャレンジ・ザ・ゲーム)	休 憩	「体験活動の意義 と実際」
20日 (日)	9:00	15:00			15:15	16:45	
	「野外活動の技術と指導」(野外炊事)				休 憩	「教育課程 における体 験活動の進 め方」	諸連絡後、 解散
23日 (水)	9:00	12:30		13:30	15:00	15:20	
	「環境学習に活かす体験活動の指 導」(自然観察・創作活動)		昼食	履修認 定試験	閉講式 諸連絡	(解散)	

4. 内 容 (活動の様子)

(1) 「教育の現状と課題」(講義) 講師：静岡県教育委員会委員長 金子容子 氏

多岐にわたる今日的課題の中でも、コミュニケーション力の育成に重点を置き、海外の教育環境や、具体的な教育方法の例をあげ、「生きる力」と「有徳」の意味と効果的な指導方法について講義を受けました。

(2) 「学級づくりに活かす体験活動の指導」(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家 次長 小林真一 氏
企画指導専門職 小松信雅 氏

① 体験活動の目的と指導方法について講義を受けた後、体育館で「チャレンジ・ザ・ゲーム」の実習を行いました。



② 最初に、初対面の参加者同士が抵抗感なくコミュニケーションが図れる方法を学びました。

③ リーダーシップやフォロワーシップの育成になる「チャレンジ・ザ・ゲーム」を体験することで、グループゲームの指導方法や指導者の役割を学びました。

(3) 「体験活動の意義と実際」(講義)

講師：国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター客員研究員 茅野敏英 氏
体験を知につなげる意図的な学習が必要であることや、知ることの楽しさや意欲を高めるためには、生活の中に体験活動が必要であることを学びました。

(4) 「野外活動の技術と指導」(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家 次長 小林真一 氏
企画指導専門職 小松信雅 氏

① 野外活動における安全管理について、実際に起きた事故の例とその対応について学びました。

② 野外炊事の食材を集めるという「フード・ハンティング・ウォーク」を行い、工夫を凝らしたグループ活動の指導方法を学びました。

③ 野外炊事では、事故・怪我を防ぐため、道具の使い方や安全指導を中心に学び、指導における基本的な技術を身につけました。

(5) 「教育課程における体験活動の進め方」(講義)

講師：文部科学省教科調査官 杉田 洋 氏

中央教育審議会の答申や、教育課程部会の報告の内容、学習指導要領に提示されている体験活動の意義や必要性、体験活動を通して気づいたことをまとめたり、述べさせたり、発表しあったりする言語活動の大切さについて学びました。

(6) 「環境学習に活かす体験活動の指導」(講義・実習)

講師：財団法人キープ協会環境教育事業部長
増田 直広 氏

- ①情報の伝達だけではなく、直接体験や教材を活用して、事実や事象の裏にある意味を学ぶ「インタープリテーション」の技法と、環境問題や環境教育について講義を受けました。
- ③ 屋外の草木や自然に触れ、体験的に学ぶ環境教育の進め方を学びました。



5. 評価

(1) 評価の方法

講習の内容や方法、知識・技能の習得、運営面について、記述式と4段階評価によるアンケートを実施しました。

(2) 結果

①アンケート集計

(有効回答：31名 4：よい 3：だいたいよい 2：あまり十分でない 1：不十分)

項目	4	3	2	1
本講習の内容・方法についての総合的な評価	29 (93.5%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての総合評価	26 (83.9%)	5 (16.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
本講習の運営面についての評価	24 (77.4%)	7 (22.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

②アンケートのまとめ

講習内容について、「講座、実技ともにとっても面白い内容で充実した3日間でした。「ぜひ、後輩にも本所での講習会を勧めたい。」など具体的な記入があり、総合的に良い評価をいただきました。

(3) 成果

- ①講義と実践的な講習をあわせて行ったことで、学校で体験活動を企画する際のノウハウを身につけてもらうことができました。
- ②交流の家で教員免許状更新講習が開催されていることを、次年度以降の対象者に知ってもらうよい機会となりました。

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- (1) 授業やクラス運営、野外活動に活かせる内容で講座を開設し、受講者が実習で身につけたことを実践できる講習としました。
- (2) 第2日目の「野外活動の技術と指導」に十分な時間をかけ、安全に関する講義の後に実

習を行い、講義内容が活かされる流れを作りました。また、野外炊事の前に「フード・ハンティング・ウォーク」を行い、ピザづくりの食材を集めることから始めました。野外炊事の応用例として、今回の企画に取り入れました。

2. 運営のポイント

- (1) 宿泊者の交流を図るため、校種間を越えて意見交換ができる時間を作りました。
- (2) 県外からの受講者もいるため、遠方からの受講者のために前日宿泊ができる配慮をしました。
- (3) 講義室に湯茶のコーナーを設置し、休憩の間に受講者が気軽に話ができる環境をつくりました。

3. 今後の課題

- (1) 宿泊を伴う3日間連続した日程で集中講義を行い、受講者の交流を深めることで、講習会以後も相談ができる関係を築くこと。
- (2) 履修認定試験の問題と採点基準について、各講師と綿密な連絡のうえで作成し、関連性のある講義について、統一問題にするなどの工夫を行うこと。

4. 参考資料

(1) 参考文献やサイト

文部科学省 教員免許更新制リーフレット（二つ折り版，三つ折り版）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/__icsFiles/afieldfile/2011/12/19/1236009_1.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/__icsFiles/afieldfile/2011/12/19/1236009_2.pdf

(2) 資料

- ① アンケート用紙
- ② 実施要項
- ③ フード・ハンティング・ウォーク実施要項

担当：加藤英樹，小松信雅，小久保武
